

今年も続く高値市況

～世界の肥料原料

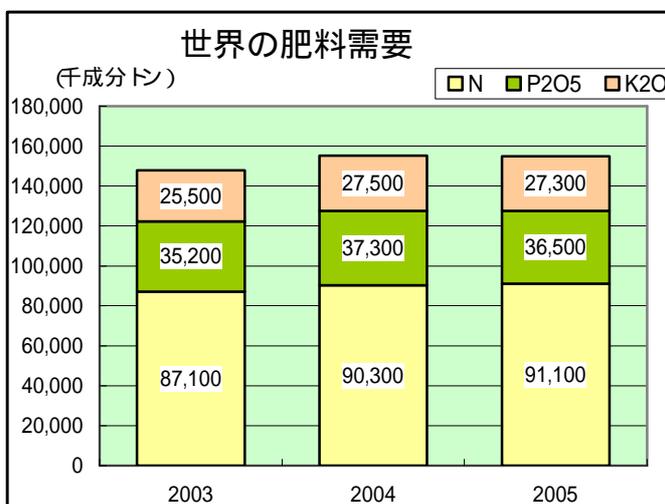
B R I C s の堅調な経済成長に押し上げられ、素材・資源価格の高騰、石油・天然ガス等のエネルギー価格も高値に張り付いている。この傾向は下落要因がない為、高値市況は継続している。肥料業界においては全農と各メーカーとの平成18年度肥料価格の交渉も始まり、ここで改めて2005年の海外肥料原料価格の動向を振り返ってみたい。

2005年概況

05年の海外肥料原料を取巻く環境は需要逼迫・粗原料高により04年に増して厳しいものとなった。この結果、主要肥料原料・製品の市況は市場最高のレベルで推移した。需要面では前年の牽引役となったブラジルが穀物市況の下落と、自国通貨高により輸出穀物の収入が減少し、肥料輸入並びに国内需要が前年比2割程度落ちたものの、成長著しいアジア市場とりわけ中国・インドの肥料需要が順調に増加した為、世界の肥料需要は昨年と略同じ1.5億成分トンを維持する見込みである（グラフご参照）。

供給面では米国天然ガス価格の未曾有の高騰

（次ページへ続く）



遠めがね

世界一となった日本のプロ野球が盛り上がっている。40歳を超えても超一流の巨人工藤投手もすごいが、フルイニング出場で世界記録を樹立した38歳の阪神金本外野手には脱帽だ。WHO（世界保健機構）により、04年の平均寿命が世界で一番長かったのは日本の82歳で前年に次いで一位だった。女性は86歳、男性は79歳で男女とも世界一の長寿である。平均寿命は0歳児が平均して何年生きられるかを表した統計値で、日本人も縄文時代では14.6歳、室町時代で15.2歳、江戸初期で20歳後半、第二次世界大戦直後の昭和22年で男性50.06歳、女性53.96歳だったそうだ。ところが、世の中の権力者の世界は異なっており、歴史上の人物の平均年齢は、戦国時代で60.4歳、江戸時代中期で67.6歳、明治時代60.6歳、昭和では72歳だ。ポスト小泉の二番手にいる福田さんの69歳も、民主党党首に選ばれた小沢さんの63歳も昭和の平均値に及ばない。ところが、証券マン、商社マンの平均年齢は67歳、生保会社、証券会社の支社長のそれは63歳と短命なのです。力への執着心が生命力の源泉か！戦士は早死にか！と言いたくなる。少子高齢化が社会問題となっているが、日本は高齢化社会（65歳以上の人口比率が7%を超える）に1970年（大阪万博）高齢社会（14%を超える）に1994年に到達した。西欧では、この移行に約50年掛かっているが、日本ではたった24年で高齢社会となった。医学の進歩と潤沢だった厚生福祉に万歳！男子の寿命を縮める因子の一つに独身が挙げられる。単身で外食や出来合いの弁当ばかりで早食いの食生活を続けると9年半も寿命が短くなる。少子化対策の為に若き男性諸君は、早くプロポーズをしよう！（WIN）

(前ページより続く)

を主要因として窒素質肥料は高価格帯で推移した。又、偏在資源で且つ山元の寡占化が進んでいる磷酸質・加里質肥料では需給逼迫に加え不需要期における生産調整も奏功し、市況が大幅に上昇した。東南アジアでは、尿素・磷鉱石の主要輸出国の地位を築いた中国が国内肥料供給を最優先にする政策の一環として両品目の輸出制限を実行したことが近隣市場の供給・市況面に大きな影響を与えた。これらに加え肥料原料の殆どを海外に依存しているわが国肥料業界にとっては年初からの約二割の円安は原料コストの大幅な上昇要因となった。

MAC掲示板

人事異動

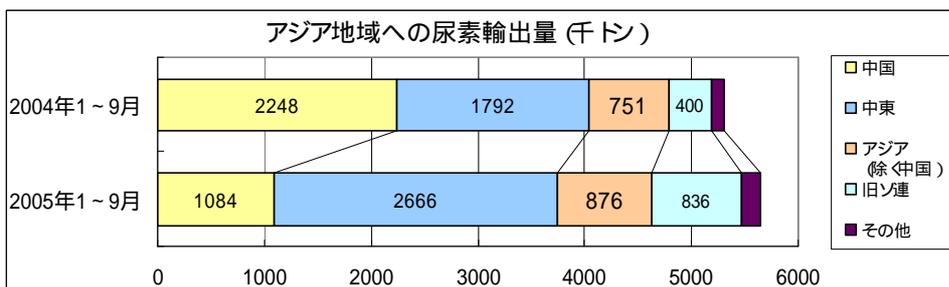
日付	氏名	新	旧
4/1	大庭真太郎	東京支店	新規採用

ウェブサイト リニューアルのお知らせ

昨年10月に開設された当社ウェブサイトが、リニューアルされました。新たにリンク集が加わり、社長挨拶なども一部変更されています。どうぞご覧下さい。

窒素質

05年はエネルギー・原料コストの上昇が窒素質肥料の市況を押し上げた一年であった。原油価格は2000年1バレル\$20~30で推移していたが2005年はその倍以上にあたる\$50~65に高騰し、石油化学原料の価格上昇の主要因となる一方で、アンモニアの主原料である天然ガスも原油価格と連動して高騰した。米国天然ガス価格は2005年初頭\$6/MMBTUレベルであったが、原油価格の高騰と共に上昇し、8・9月の二度に渡る米国へのハリケーン直撃によりその価格上昇は勢いを増し11月には一時\$15/MMBTUを越える未曾有の価格帯に突入した。北米アンモニア製造メーカーはこの天然ガス価格の高騰による原料コスト高の為、採算が悪化し減産せざるを得ない状況に追い込まれた。その結果、輸入品への依存度が更に高まり、米国のアンモニア輸入量は2004年より100万トン増の800万トンとなった。



米国を中心とした輸入需要が増加する一方、供給力としては春先にオマーンにて25万トンの輸出余力を持つプラントが新規に稼働したものの、西豪州の輸出能力72万トンを有する

新規プラントの稼働開始が2006年春へと遅れた事と、更に天然ガス価格高及びガス供給力不足により2005年末にはアラスカとカナダのプラント(各々の輸出能力は25万トン・20万トン)が生産停止に追い込まれ、需要の伸びに供給が追いつかない状況が続いている。係る状況を背景に、2005年のアンモニア国際市況は、市場最高値のレベルで推移した。

一方、アンモニアを主原料とする尿素市況も市場最高の価格帯で推移した。世界貿易量の約3割を占める中東産尿素は、2005年のFOB価格が\$200台半ばで張り付いた。尿素の主原料であるアンモニア市況の高騰が価格高騰の主要因であるが、2004年に世界第3位の輸出量を誇っていた中国が国内供給優先策として尿素輸出に15~30%の輸出税を賦課し、国内需要期に合わせ輸出量を制限する政策を取った事の一因となった。その結果、2005年の中国の尿素輸出量は1.57百万トンまで落ち込み、前年の3.944百万トンから大幅に減少した。この影響を大きく受けたのは近年中国産尿素を主要供給元としてきたアジア各国であり、2005年1~9月の中国からアジアへの供給量が前年同期比半減する一方、同地区への中東・旧ソ連など域外からの輸入量が増えることとなった。当然のことながら域外からの供給は輸送コストが高くアジアの尿素市況高騰の要因ともなった。

磷酸質・加里質は次号へ続く。

MAC掲示板 = 訃報 =

当社社員 吉野淳一(大阪支店)が平成18年3月25日急逝致しました。ここに生前のご厚誼に深謝し、謹んでお知らせ申し上げます。

編集局長：吉野友隆 アシスタント：助川尚子

電話：03-5802-2011/E-mail：journal@mcagri.co.jp URL http://www.mcagri.jp